令和8年1月30日

保護者様

北九州市立早鞆中学校
校長　園田　和臣

令和７年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、３年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（４月１４日から４月１７日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

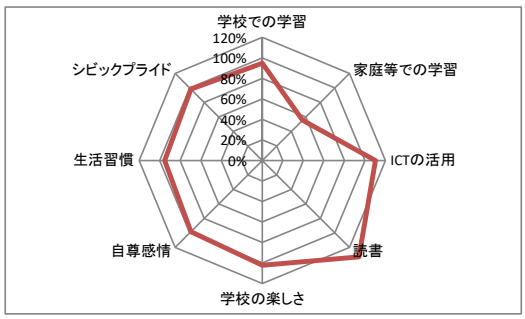
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	提示された発言や構成の意図や効果を問う問題については、全国平均を上回っている。一方で、自分なりに助言を考えて書くような問題には課題があった。
数学	既に分かっている事柄を基に新たな内容を見出す力を問う問題については、全国平均を上回っている。一方で、語句の意味を正しく理解していれば解答できる問題で、設問の意味を理解できずに不正解となる傾向があった。
理科	「粒子」を柱とする領域、「エネルギー」を柱とする領域の知識・技能を問う問題については大きく全国平均を下回っているものが見られた。その他の領域の問題についてはどの観点についても大きな差があるものはなかった。

２．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・昨年度と比較して、「ICTの活用」に関する肯定的な回答が増えている。 各教科の授業でICT機器を活用する場面が増えている。 ・「学校の楽しさ」に関しては、約90%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・「自尊感情」に関して、「人の役に立つ人間になりたいと思う」に対する肯定的回答が全国平均を上回るなど、昨年度と比較して向上が見られる。 ・「家庭等での学習」の数値が、全国平均を大きく下回っている。 基礎学力の定着のためにも、家庭学習の習慣をつける必要がある。

３．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・教え合いや学び合いによる協働的な学習が定着しているが、自分の考えを表現することに課題が見られるので、授業の中で、少人数での意見交換等を通じて、自信をもって自分の意見を表明できるような取組を行う。
・引き続き「学習の3か条」を意識した授業を継続する。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・望ましい生活習慣や家庭学習の定着のための啓発を行う。
・基礎学力の定着を目標とした課題や自身の興味・関心に基づく探究活動に関する課題等、多様な課題を通じて家庭学習に意欲的に取り組む習慣をつける。